

第17回ツール・ド・おおすみサイクリング大会参加者調査

隅野 美砂輝*

生涯スポーツ実践センターの兼任の教員です。隅野と申します。よろしくお願ひします。今日、私からは先ほど説明のありましたツール・ド・おおすみサイクリング大会17回の参加者アンケートの結果を説明させていただきます。今回生涯スポーツ実践センターがこちらの調査をCASEプロジェクトの企画ということで実施させていただきました。本来はセンターの北村が報告する予定でしたが、急きょ代打ということで私がさせていただきます。実際、当日にアンケートを実施した際は、私は別の業務でいませんでしたので、立ち会っていないということもあって、理解不足や説明不足の面があると思います。坂口と中道さんから、大会の様子など、サポートのコメントなどがありましたらよろしくお願ひします。

まずは調査の概要です。目的は参加者を対象に大会に関する意見、観光行動について尋ね、今後の運営のための基礎資料を得ようという、1回目のプロジェクトでしたので簡単なところから始めようということで行いました。調査対象は、大会に出走した参加者、延べ494名となっています。調査の実施日はイベント当日の11月25日土曜日と26日日曜日の2日間に実施をしています。調査方法はアンケートを用いた調査で、具体的にはゴールしたあとに調査員が直接配布をして、ブース等を使って行うということでした。実際に行われた感想として、どのような対応があったかという補足をお願ひします。

坂口：当日、私も学生と一緒に配布をしました。まず寒かったです。1日目の時点で雨がぱらぱらしている状況だったので、実際のエントリーは600数名ありましたが、当日参加・出走されたのは494名ということで少なめになっています。そのうちの359票なので72.7パーセントで非常に高い回収率を得たということです。お願ひします。

それで回収数は359票で参加者の72.7パーセントと

なっています。まずは、先ほどお配りしている分厚い報告書のグラフを主に使いながらですけれども、この図の番号が前後しています。簡単にするために前後させているので、スライドと、スライドのイメージを1ページに6枚印刷したものを配布資料としていますので、見ていただけたらいいと思います。A4の表裏3枚、左にホチキス留めされている資料になっています。

まず参加者の住まいについては、全体では、青の大隅地区の居住者が19.2パーセント、赤のそれ以外の居住者が80パーセントになっています。参加回数別で見ますと、初参加も2回目以上もほぼ変わらない数字となっています。

こちらは報告書にはないデータですが、居住地を詳しく見ますと、県別では九州が多めになっています。先ほど、中道さんが説明されたのは15回大会以前のデータで、こちらは17回大会のデータですが、ほぼ同じ傾向となっています。鹿児島県が一番多くて63.5パーセント、それから宮崎・熊本・福岡が多いのも先ほどのデータと同じです。他の九州、隣県の山口、関西では滋賀・奈良、中部は愛知、それから関東と数は少ないですがそういったところからも来られていますがやはり九州が多いということです。大隅地域の中を詳しく見ますと、大隅地域をこちらの自治体にカテゴライズして、鹿屋市が50名で大隅の72.5パーセント、全体の13.9パーセントを占めています。同じ鹿児島県でも大隅地域以外が44.3パーセントで、県外から来られているのは35.1パーセントと、大体このような分布になっているということでした。

それからツール・ド・おおすみの参加回数ですが、初参加か2回以上かということを見ましたが、全体で見ると初めての方が42.1パーセント、2回目が18.9、3回目が37.9ということで、これは比較的いい分布だと思います。リピーターだけで固まることもないですし、新しい人も定期的に入っているということで、非常にいい分布ではないかとフラットに見させていた

* 鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター

きました。

性別は、属性別に見ても全体で見てもほぼ同じで、男性が85.2、女性が13.4パーセントとなっています。狙い通りですか。いかがですか。もう少し女性を増やしたいということも、もしかしたらあるかもしれません。

それから次は年代です。中道さんのご説明とほぼ同じで、やはり全体のボリュームゾーンは40代、50代、60代で、30代が少し出ている、10代、20代は少し少ないかたちになっています。これには競技特性ということもあるかもしれません。

これも面白いと思ったのですが、誰と来たかということで、全体も属性別でもほぼ同じような傾向ですが、全体で1人で29.8パーセント、家族連れ、友人・知人などのグループというのがこういった割合で、いろいろな形態で参加できるという点でも非常にいいイベントであると思います。また、友人・知人のグループが50パーセントというのも、誘い合ったりとか、誘われたりというのが起きやすいイベントであるということ、これも将来性があると思います。

それから交通手段は、この辺りにお住いの方はご存じとは思いますが、自家用車で来られるという方がほとんどということでした。

どのような日程かということでは、今回と前回は2デーのイベントということで、泊まっているかということを知っていますが、大隅地区居住者はほとんどが日帰りです。全体で見ると63パーセントが日帰り、1泊したのが24.8パーセントとなっています。地域外だと55.5パーセントが日帰り、それ以外が泊まりを選択しているということでした。

どのコースに参加したかということでは、全体で言いますと、100キロの一番ハードなコースが55.7パーセントで最も多いということでした。1日目に開催したSPコースは11.1パーセントで数としては少なくなっています。これが参加回数別で見てもほとんど同じです。SPコースだけを見ると、大隅地区の居住者の割合が高い傾向となっています。

宿泊費は、全体平均では9,428円です。大隅地区での支出総額は、宿泊費も含まれていると考えられますが、全体平均が1,3649円で、宿泊費が9,000円ぐらいで残りが5,000円弱と思っています。やはり大隅地区の方は少なくなっているという結果でした。

それから大会前後に訪れた大隅半島の観光地の有無

ですが、全体では訪れた観光地があるのが27.6パーセント、ないのが40.4パーセントです。大隅地区居住者では訪れた観光地がある方が少ない、その他でもそれほど数は変わらず、3割が観光地に行っているという結果になっています。どこを訪れたかを多いもので見ますと、最も多かったのが、かのやばら園、2番目が佐多岬、3番目が鹿屋航空基地の資料館です。それから少し飛んで桜島というようなところに行っているということでした。

次は参加動機のデータとなります。これは項目ごとに、「あてはまる」から「あてはまらない」までの分布を表していますが、まずは高い値だったもので、風景・観光スポットを楽しむが、全体の合計で67.7パーセント、それぞれの属性でもほぼ変わりませんでした。ここが一番大きな動機になっている部分と考えていいかと思います。それから次が地元のおいしいものを食べるということ、全体では66.8パーセントとなっています。紫とブルーのこの領域を見ていただくといいかと思います。大隅地域以外の方で少し高めの値が出ています。3番目に、他の参加者との交流というのも動機としては高い値になっていて、特に大隅地区の方で非常に高い値になっていました。他の参加者と交流できることが動機になっていると考えられます。招待選手や鹿屋体育大学自転車競技部選手との交流というものも高く出ていて、2回目以上のほうが高かったり、地区でいうと大隅地区の方の値のほうが高かったという結果になっていました。

逆にここからは動機として高く出なかった項目です。地域の歴史や文化に触れるというのは値としては足すと32パーセントぐらいということで、あまり訴求効果にはなっていないかったです。複数日の宿泊型サイクリングであるということも参加者の傾向もあって、それほど大きな誘因にはなっていないということでした。2日間参加した人はもしかしたらここが多くなってくるかもしれませんが、この辺りはもう少し詳細な分析が必要かなと思います。それから、農業・漁業等地域の魅力を体験というのもあまりなかったということでした。

次は満足度で、実際に参加してどうだったかということを知りました。最も高かったのは大会スタッフの対応で、ここまでのボリュームゾーンを見ると88パーセントと非常に高い値となっております。これは属性別で見てもほぼ同じ傾向です。それから開催地

もいいということで、これも80パーセント以上です。それからコースも非常にいいという評価が出ています。コースは大隅地区以外の方のほうが高く出ています。また、初参加の人もコースに対して非常に高い評価をしているという結果になっていました。それから参加者間の交流、先ほどイベントも行われているということでしたが、こちらも高めで65パーセントほどの方が満足されていました。

ここからは少し低い項目になりますが、低いと言っても大体50パーセントぐらいです。参加費については少し低めの評価になっていました。続いて参加賞についても少し低めでしたので、あまり課題はありませんでしたが敢えて言うならばこの辺りの改善が必要かもしれません。恐らく参加賞のところが上がってくると参加費も満足してくれるような、そういう関係性もあるようなデータなのではないかと思います。このあと、そういった課題についてのディスカッションもできたらと思っています。それから、これが一番大事なところだと思いますが、最後、結局大会全体の満足度はどうだったかと質問したところ、やはり80パーセントが「やや満足」と「満足」の方に回答をしており、これは大隅地区・その他の地域、それから初参加・2回目以上でも同じですので、どのような属性の方が来られていてもかなり高い満足度を得て帰っていかれているということになっています。また、最後に今後ツール・ド・おおすみへの参加意向はありますかと聞いたところ、もう90パーセントを超えた方々が、参加したいと思っていることから、しっかりとした運営であるとか、コースであるとか、参加者のイベント等々が満足につながりそのあと今後また参加したいリピーターにつながっていく運営が十分できていることが今回の調査で分かったと思います。

最後にまとめとしてハイライトを箇条書きで書きました。先ほど私をご説明したのとほぼ同じ内容ですので、流します。参加動機は、風景、おいしいもの、参加者との交流があるということ。それから満足度はスタッフの対応もいいし開催地もコースもいい、エイドステーションやトイレなども時間の都合で割愛しましたがいい評価でした。全体的な満足度も非常に高く、課題があるとすれば参加費・参加賞の部分になるでしょうか。

実際にこういったデータを開催地の方や、運営をされている方が見て、ここはできていた、ここはできて

いなかったというような反省材料に、これからこのイベントをどのようにしていったらいいかという今後の方向性を考えるきっかけにいただければと思います。これを中道さんがどう捉えられるか、またディスカッションでぜひお聞きしたいと思います。

簡単ではございましたが、以上になります。ありがとうございました。

坂口：ありがとうございました。

工藤：少しだけいいですか。これは中道さんに聞いたほうがいいのかもかもしれませんが、教えていただきたいのは、参加したコースというところでSPコースとAコースとBコースに分かれています。これはSPコースに出て、次の日もAかBに出たと考えていいのでしょうか。

坂口：私のほうで答えたほうがいいですね。

工藤：お願いします。

坂口：回答は、回答した人たちに対して何パーセントというかたちで今は出しているのですが、300何人かの回収したのに対して十数パーセントの人たちが初日も参加していた、2日目にも参加していた場合があると考えてください。このパーセントをそのまま解釈するには非常に難しいデータにはなっています。

工藤：マウイマラソンというマラソン大会があって、今は形が変わってしまいましたが、1.6キロ、5キロ、10キロ、ハーフ、フルというのが2日間に分かれています。これを、1.6キロ・10キロ・ハーフと出てもいいし、5キロ・10キロ・フルと出てもいいという傘下の仕方を設定しています。そうすると、自分のチャレンジとして、初日にどれかに出て、短いのが初日に行われて長いハーフとフルが2日目に行われるので、自動的に両方来ないといけなくなるし、ひょっとするとコースの下見とか受付とかのために、もしかしたら前日入りをして2泊する可能性もあると思ったものですから。SPに出てA・Bにチャレンジするというのもありかという感じがして、それでお伺いしました。

坂口：ありがとうございました。

工藤：あと1つだけ聞いてもいいですか。このアンケートの観光地で温泉を入れなかったのはわざとですか。それともこの中に入っていますか。僕は昨日こちらについてなのですが、先にゆたか温泉に行こうかどうしようかすごく迷いました。以前菜の花マラソンの調査をやったときには、温泉に寄ってから帰るという方々がかなりいらっしゃったので、こういうイベントごとのあとは意外にそういうのが多いと思います。関東でもスーパー銭湯に寄って帰るという方も結構いらっしゃいます。すいません。ありがとうございました。

坂口：ありがとうございました。多分温泉のほうについては、宿泊場所がどこですかという聞き方をしていたというのがあります。なので、温泉にそのあとに行くか行かないかというところまで聞いてみるのも今後の課題になると思いました。ありがとうございました。

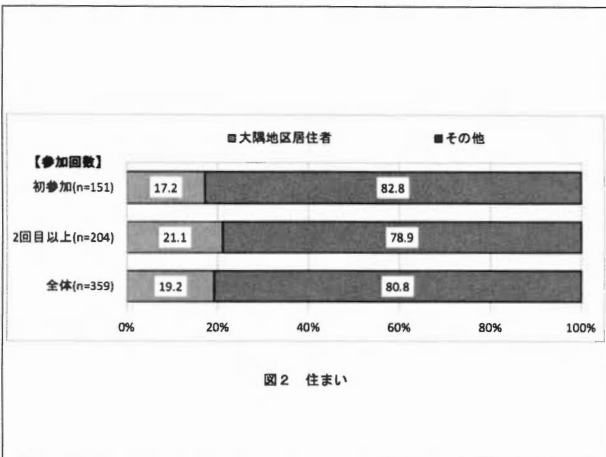
それでは、これから質疑応答に入ります。

第17回 ツール・ド・おおすみ サイクリング大会 参加者アンケート結果

生涯スポーツ実践センター
隅野 美砂輝

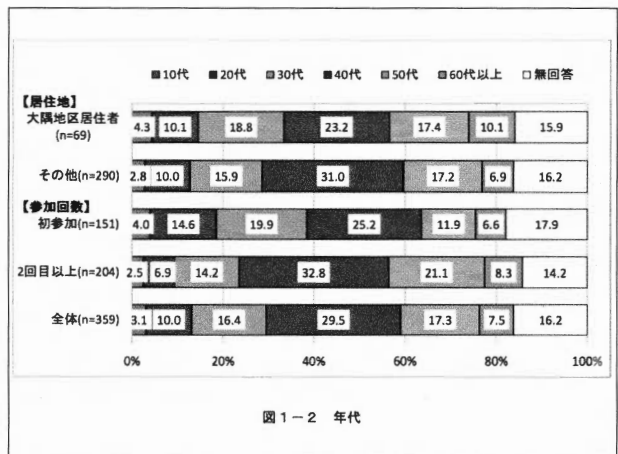
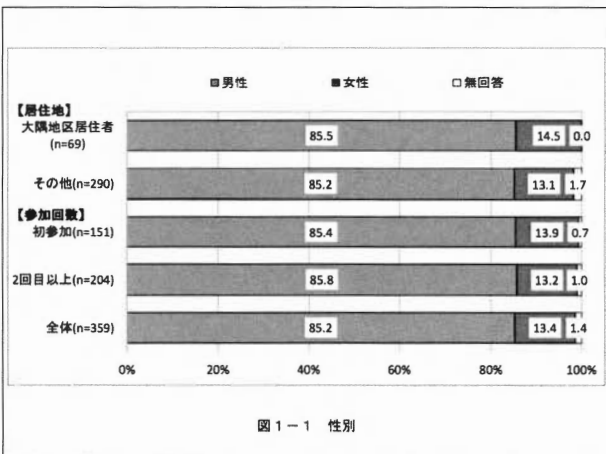
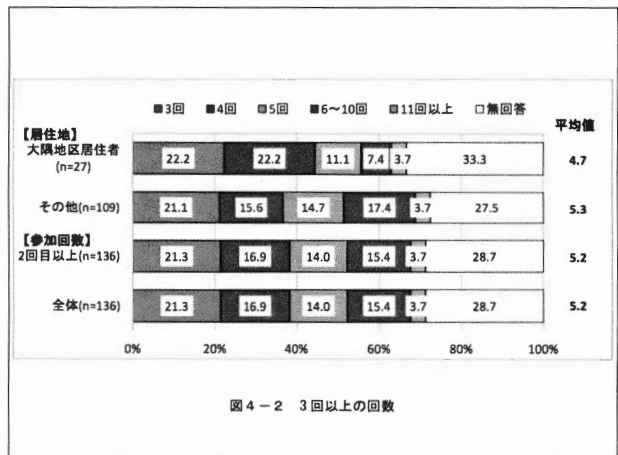
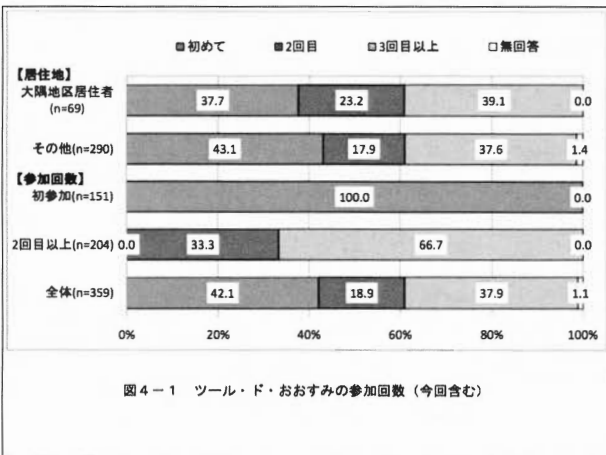
I. 調査概要

- ・ 調査目的
 - 参加者を対象に、大会に関する意見、観光行動について尋ね、今後の運営のための基礎資料を得る
- ・ 調査対象者
 - 大会に出走した参加者 延べ494名
- ・ 調査実施日
 - 平成29年11月25日(土)・26日(日)
- ・ 調査方法
 - アンケート調査 ゴール後に調査員が直接配布
- ・ 回収数
 - 359票 (参加者の72.7%)



居住地		居住地(大隅地域)			
	n	%	n (大隅半島)	%(全体)	
鹿児島県	228	63.5	鹿屋市	50	13.9
宮崎県	36	10.0	肝臓郡	7	1.9
熊本県	33	9.2	志布志市	3	0.8
福岡県	29	8.1	垂水市	2	0.6
大分県	5	1.4	曾於郡	4	1.1
長崎県	2	0.6	曾於市	3	0.8
沖縄県	2	0.6			
山口県	2	0.6			
愛媛県	2	0.6			
滋賀県	1	0.3			
奈良県	1	0.3			
愛知県	1	0.3			
東京都	7	1.9			
神奈川県	2	0.6			
千葉県	2	0.6			
埼玉県	1	0.3			
無回答	5	1.4			
全体	359	100.0			

居住地	%(全体)	
大隅地域	69	19.2
鹿児島県(大隅地域外)	159	44.3
鹿児島県外	126	35.1
無回答	5	1.4
全体	359	100.0



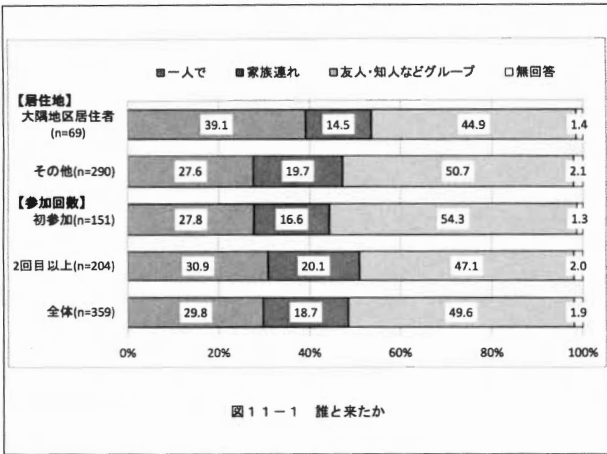


図 1 1 - 1 誰と来たか

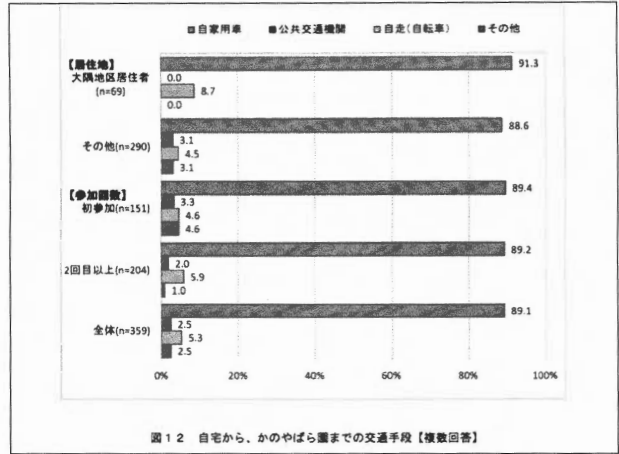


図 1 2 自宅から、かのやばらまでの交通手段【複数回答】

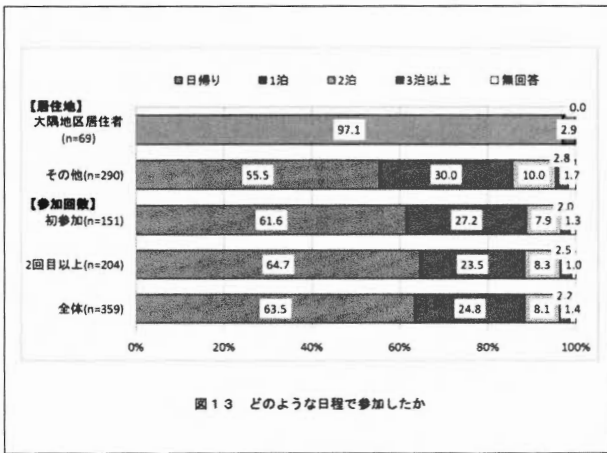


図 1 3 どのような日程で参加したか

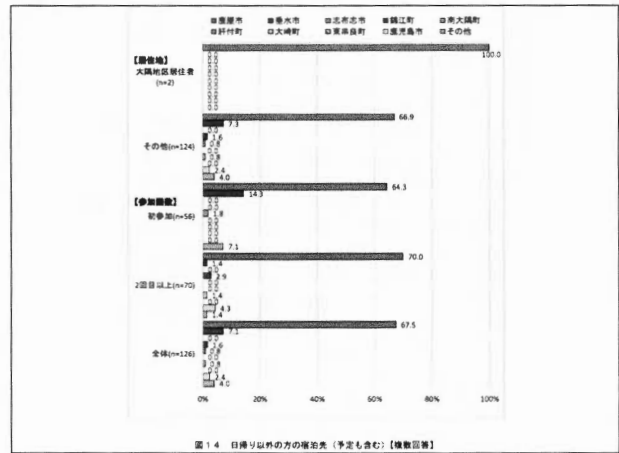


図 1 4 日帰り以外の方の宿泊先(予定も含む)【複数回答】

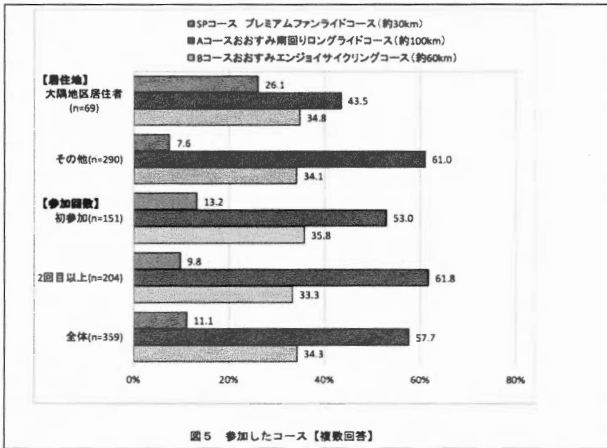


図 5 参加したコース【複数回答】

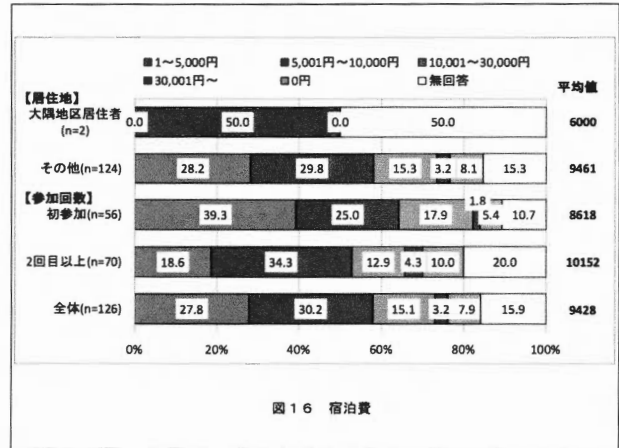


図 1 6 宿泊費

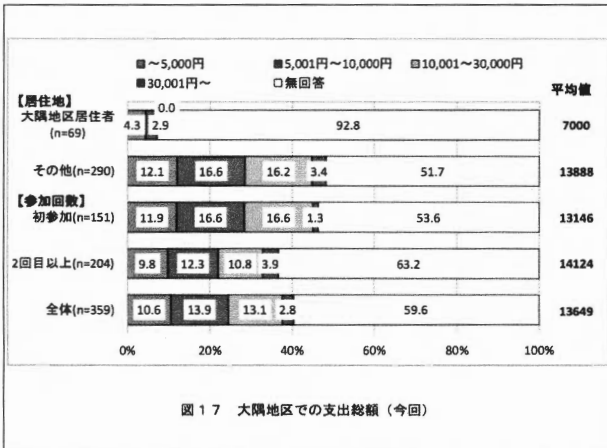


図 1 7 大隅地区での支出総額(今回)

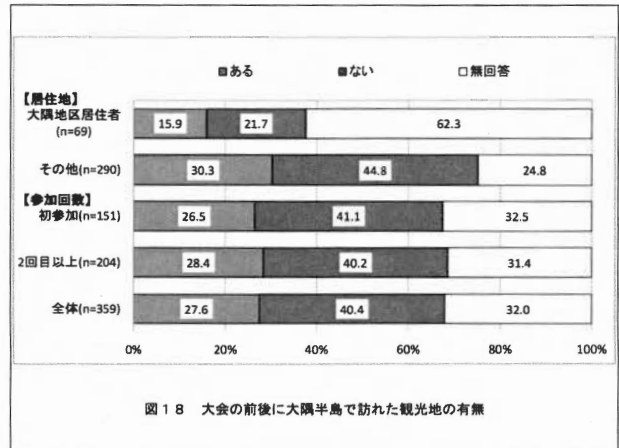
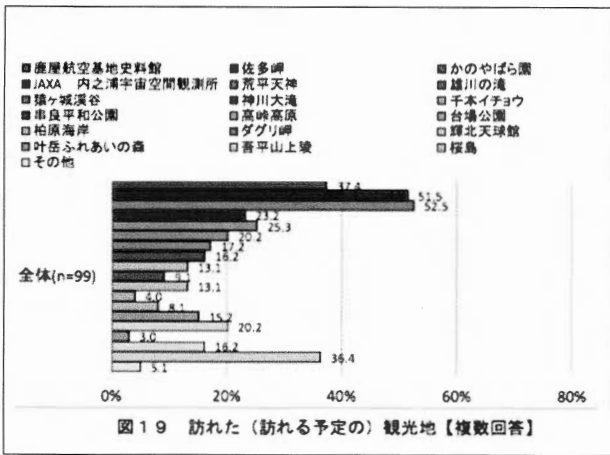
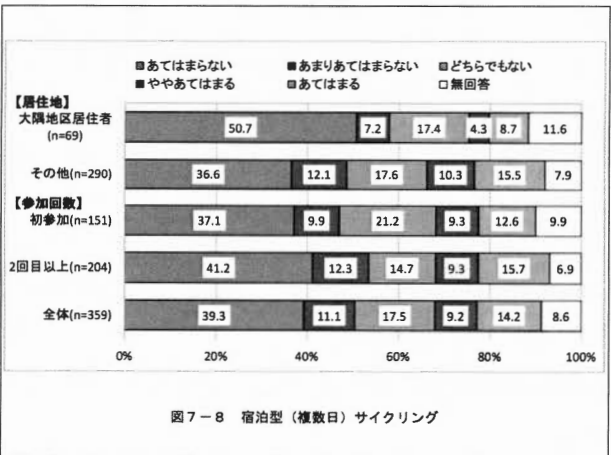
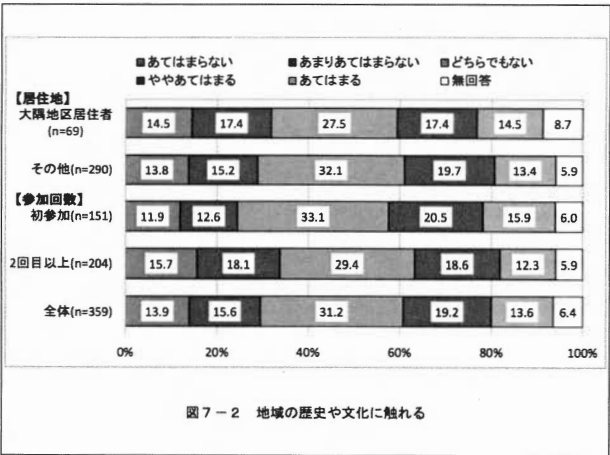
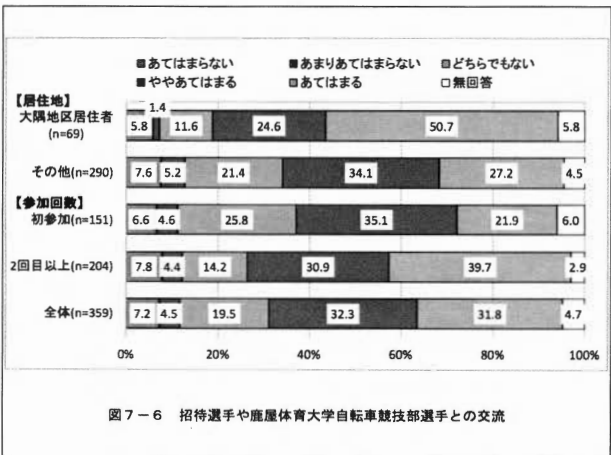
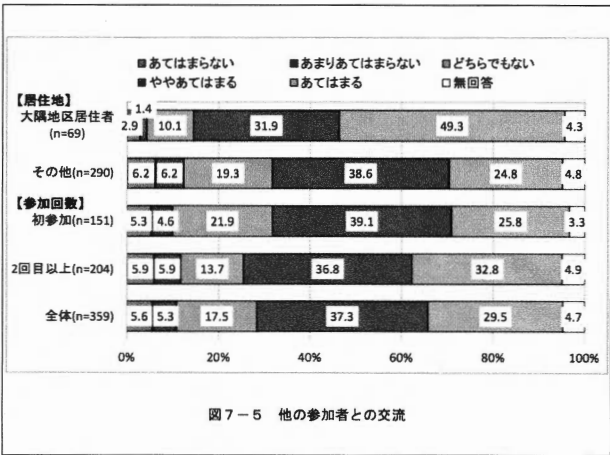
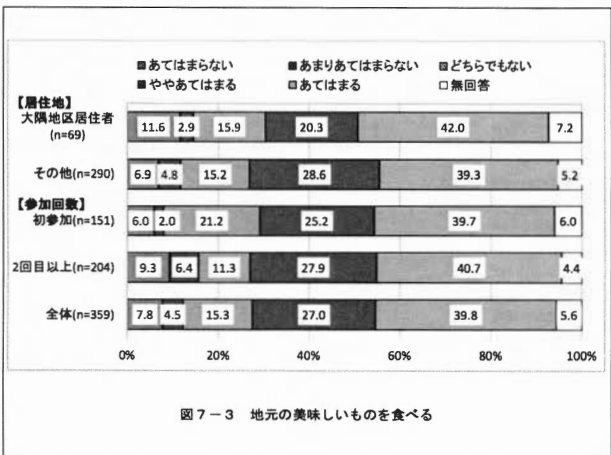
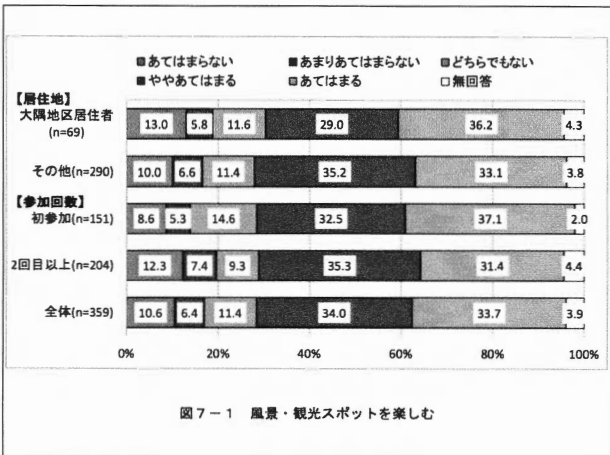
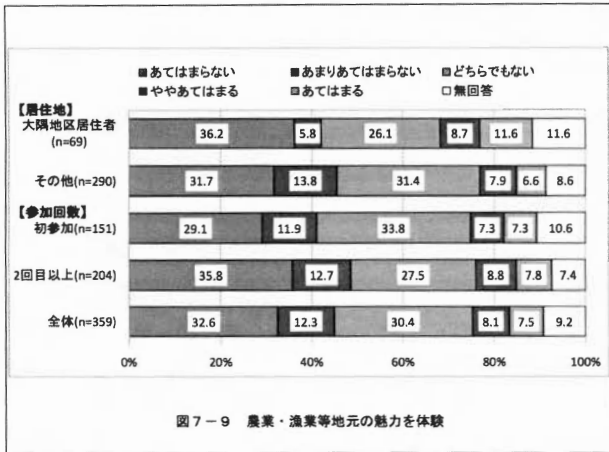


図 1 8 大会の前後に大隅半島で訪れた観光地の有無

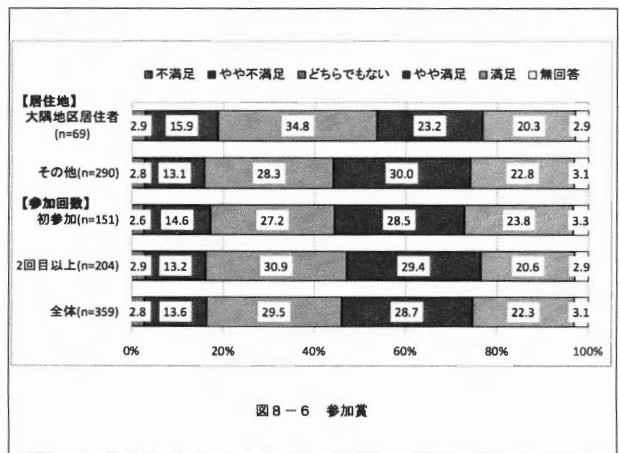
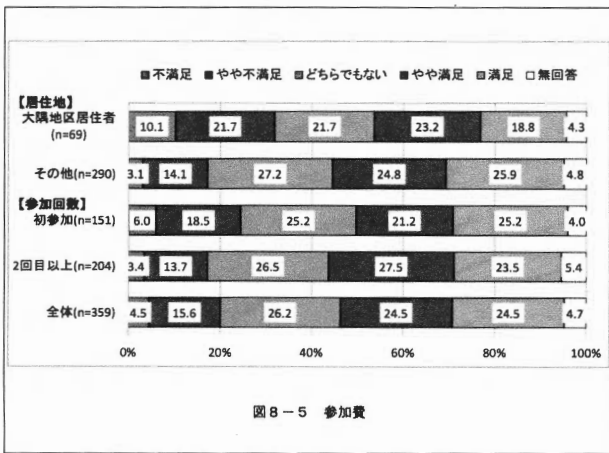
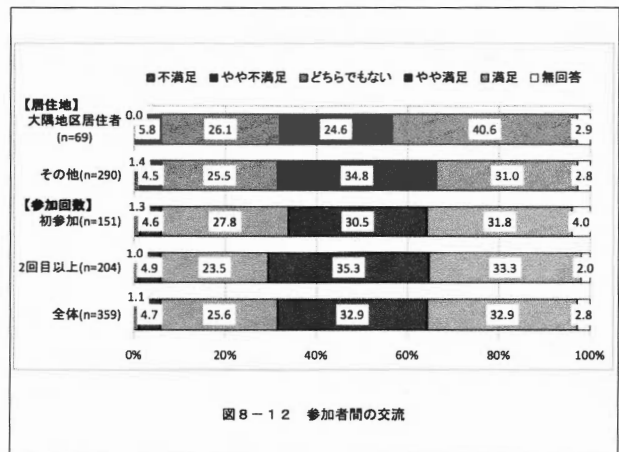
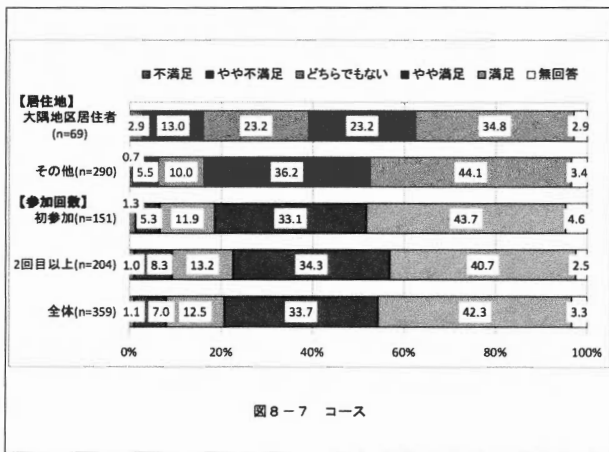
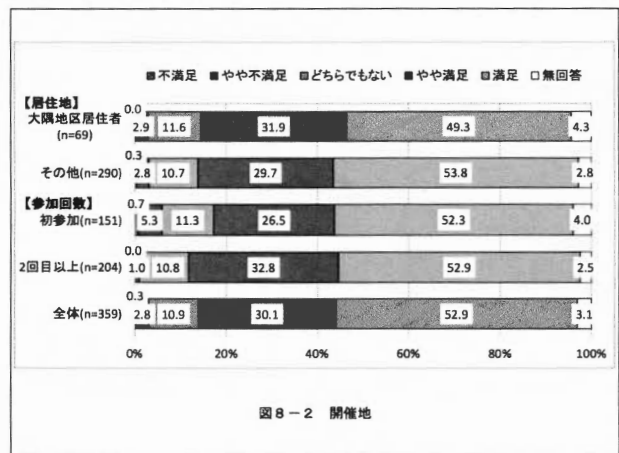
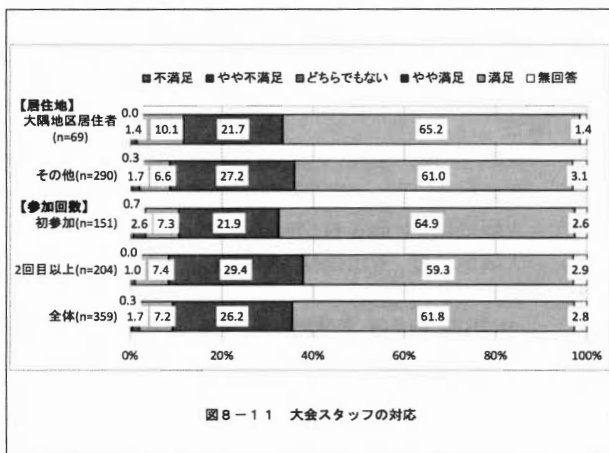


参加動機





満足度



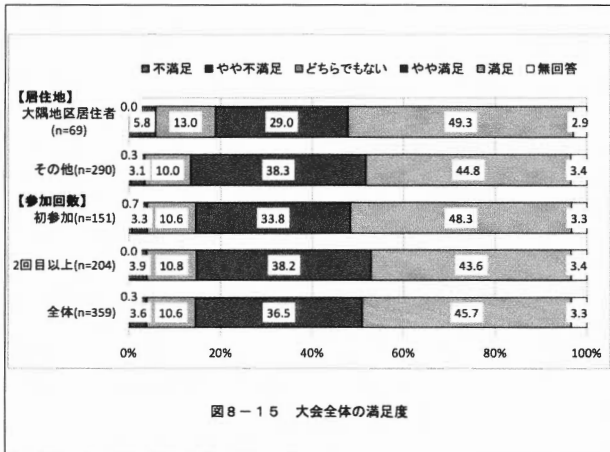


図8-15 大会全体の満足度

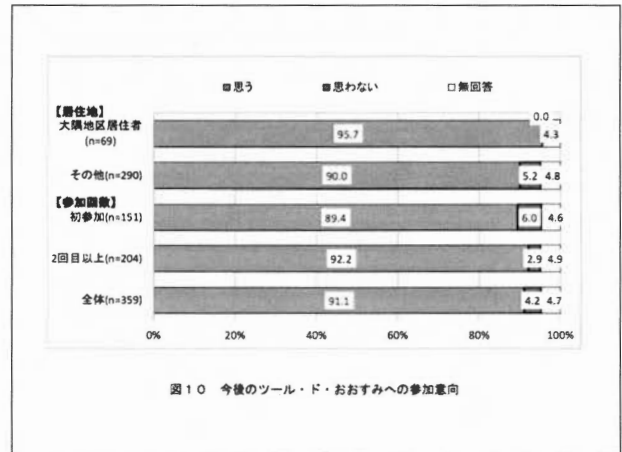


図10 今後のツール・ド・おおすみへの参加意向

まとめ

・属性

- 大隅 19.2% 県内(大隅以外)44.3% 県外 36.5%
- 初参加 42.1% 2回目 18.9% 3回目以上 37.9%
- 大隅地区外, 泊り 44.5%. 多くは1泊.
- 大隅地区外, 支出総額 13,888円
- 観光地訪問 あり 27.6%
 - ・ ばら園, 佐多岬, 基地史料館, 桜島, 荒平天神, JAXA,